

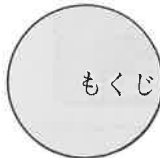


第7号
 編集発行／碧南市
 哲学たいけん村
 無我苑
 所在地／碧南市坂口町3-100
 〒447：TEL. 0566-41-8522
 ：FAX. 0566-41-7761

特定の〈もの〉を個人的に収集する人は少なくない。収集の楽しさは、それに没頭し日常を忘れることでもある。

今回、企画展示で扱った〈だるま〉も、オーソドクスな個人コレクションに属する。収集品はなんらかの意図をもって集合し、収集家の独創性に委ねられた内的空間を創出するのか、「日本のだるま」企画展はあらゆる来苑者を魅了した。

(第7回瞑想回廊企画展示)
 9.1.5～9.3.2開催



平成8年度各種講座・講演の記録

後期哲学講座に
 杉本秀太郎氏来苑

エンカウンター・グループ
 を終えて

梅原村長トピックス
 など



平成 8 年度各種講座・講演の記録

●はじめての哲学講座

『ソフィーの世界』で学ぶ哲学史

期間 平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月

講師 加藤博子氏（中京女子大学人文学部講師）

《受講者の感想》

月に一度（自分の時間）を楽しみにして通うことができました。「ソフィーの世界」は講座前に読んだだけになってしまいました。講座ごとに再読するといいたろうか、と思いつつできせんでした。毎回、資料が用意され、先生からお勧めの本等の案内が充実していて良かったと思います。（T・S）

自分の知らなかった哲学者に興味を持てるようになりました。また、質問して初めて分かるようなこともたくさんあり、独習の 5、10 年分の知識を得ることができました。いろいろな本の紹介もそうですが、ソフィーの世界の読解を通じて、本の読み方、というか小説の手法のようなものを知り、文学の面白さに少し目覚めました。先生、一年間ありがとうございました。（K・M）



●前期・後期哲学講座

平成 8 年度哲学講座講義テーマと講師名

講義テーマ	講師名（敬称略）
主テーマ「たいけん」	クリステワ・ツベタナ（中京女子大）
詩作と「たいけん」	竹田純郎（金城学院大）
思索と「たいけん」	有福孝岳（京大）
信仰と「たいけん」	久野 昭（中京女子大）
「けいけん」と「たいけん」	
主テーマ「無常」	小川 侃（京大）
万物流転～西洋の「無常」観	杉本秀太郎（国際日文研）
【平家物語】の世界	池見澄隆（仏教大）
諸行無常～東洋の「無常」観	久野 昭（中京女子大）
常と無常	

●歌舞伎のみかた講座

期間 平成 8 年 10 月～平成 9 年 3 月

10 回

講師 毛受幸子氏（歌舞伎研究家）

●梅原猛名誉村長新春特別講演会

とき 平成 9 年 1 月 26 日(日)

演題 「中国の二つの文明

～長江と黄河～

●茶の湯文化講座

とき 平成 9 年 2 月 2 日(日)

演題 「茶道と現代」

講師 倉沢行洋氏（神戸大学教授）

後期哲学講座に
杉本秀太郎氏来苑

「平家物語」で大仏次郎賞を受賞した杉本秀太郎氏が平成 8 年 11 月 30 日、講師として来苑、「無常」をメインテーマにした後期哲学講座で「平家物語」の世界について語られた。

「先生の本でやっと『平家』の入り口に立てそうです」、「先生の『平家物語』は、講談社の『本』で長く親しんできましたので、聴講は若い頃の様な新鮮な感銘を受けました」など、聴講者の歡喜に満ちた感想が寄せられた。講義終了後、氏の日本芸術員新会員選任（11 月 22 日付）をお祝いして、聴講者一同が花束を贈呈、先生は白いカサブランカを手に、感無量のご様子だった。



エンカウンター・グループを終えて

▼平成 9 年 2 月 28 日

～3 月 2 日

連日のセッション（話し合い）で心の交流がなされた参加者は、2 泊 3 日の全行程を終え、いよいよ解散、という間際、全員で別れを惜しんだ。電話するわね、またどこかで会おうね…。中には一人一人に握手を求めた人までいた。

人と人との深い出会いをする。参加者だけのセッション中に、何が起こったかは分からない。（自分）に新しい発見をして立ち去っていく人もいただろうし、仲間と心で分り合えた喜びを胸にして、帰っていく人もいたにちがいない。皆さん、お元気で。無我苑が今回初めて試みた「エンカウンター・グループ」は心の出会いの場を提供する、貴重な一歩を踏み出した。

参加者の感想（一部抜粋）

(M・K)

エンカウンター・グループの内容も分からないまま、「自分さがし」という見出しを手がかりに、何かがある(?)と、思っただけだ。

円形に座り、一人一人の顔を見ながら内容もよく分からないまま、時の流れをかみしめている中で、ポツポツと語り合っただけで和んでゆく。テーマが与えられない、だから話し方が分からない。自分と周りとの関わりが近くにも遠く感じられる時もあった。全く知らない者同志の 3 日間の出会い。エンカウンター・グループとして共に過ごしたことを良い経験として、将来の糧としたい。

ゆっくりと語りかける人、長い間じつと聞耳をして耐える時、運命共同体の中

でみんなが一つになる時であった。期待と不安が始まった3日間も、最終日には不安がもう消えていた。顔も正面から見られるようになってきた。ここで出会った人達が今後どんな歩み方をするのか数年後、再び出会ってみたい。



梅原村長トピックス

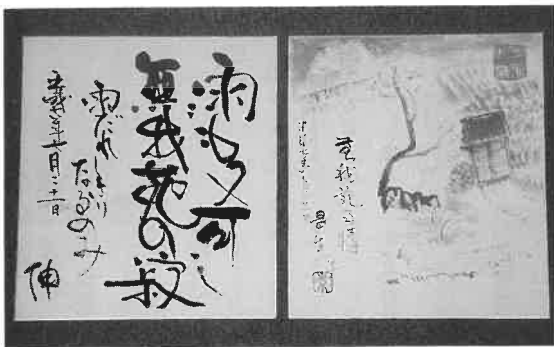
梅原猛・藤平伸・三浦景生
書画の妙 異色三人展
開催記念トークショー

陶芸家、藤平伸氏、染色家、三浦景生氏は昨年無我苑で開催した「梅原猛古希祝賀特別展」でおなじみかと思う。名古屋にある松阪屋美術画廊。松阪屋本店南館6階で、異色三人展(会期11月12日(日)〜1月18日(土))を開催したのにちなんで、同月15日、哲学者一人と芸術

家二人、という異色のトークショーが開かれた。会場はマツザカヤホール、演題は「芸術と遊び」。共同制作の作品に関する話題が多く、梅原先生が進行役も兼ね、交流の深い二人から巧みに言葉を引き出した。

「三老人あり 一人はあやしき色の野菜を天に飛ばしめ 一人は少年の日の音なき笛を吹く 一人は怨霊をよみがえらす事を身のたずきとす 三老人ここに集いて 天外奇想の境に遊ぶ 楽しきかな 楽しきかな」(書 梅原猛、染 三浦景生)

創作の中で昇天する野菜を取材する三浦先生、笛を吹く少年の面影を今もって漂わせる藤平先生、そして聖徳太子、柿本人麿など、歴史的人物に光をあて、定説を覆す梅原先生。二曲屏風「風花雪月」は三人三様を表わした友情のシンボルだ、ということが対談の中で語られた。



三浦景生、藤平伸両氏からいただいた無我苑の作品

無我苑俳句会俳句作品展

▼平成8年12月1日〜12月26日

無我苑俳句会は無我苑の研修道場で、夜間、定例の句会を開く。発足のきっかけは平成6年度、無我苑が主催した俳句講座。講師、杉浦元(虹波)氏が、引き続き句会代表に就任、句作の手ほどきをする。

俳画・短冊・色紙などは全て会員の方の力作。搬入から展示、搬出と、何から何まで、協力していただいた。

瞑想室には会期中、俳句のスペースを設けた。来苑者は思い思いの句をしたためて壁に止め、それを別の来苑者が目にし、つぎつぎと句作の輪が広がった。

以下は、来苑者が無我苑を詠みこんだ句のうちの、三作。

娘嫁し師走の一時無我苑で 幸助
哲学の突然来せり館かな 茂
チャプリンも安吾も冬の静けさに 重孝

本の情報

●PHP研究所
日本人の新たな使命求めて

『政治と哲学』

中曾根康弘
梅原 猛

日本の伝統とは、人間の本质とは、資本主義の未来とは？明日の日本を構想する白熱の対話！

●NHKライブラリー

『あの世と日本人』

梅原 猛

日本人は伝統的に「あの世」というものを信じてきた。その原点は縄文時代にまでさかのぼる。仏教渡来以前のあの世観から、法然、親鸞、一遍の浄土思想、現代日本人の宗教観にいたるまで脈々と受け継がれてきた日本人のあの世観の系譜。生あるものの永遠の循環の思想を浮き彫りにし、現代の科学文明のあり方も問い直す。

●燈影撰書

『一期一会(1)』

井伊直弼茶書

(校訂解題) 倉沢行洋・井伊正弘
すぐれた政治家であるとともに、幕末最大の茶人でもあった井伊直弼の不朽の名著『茶湯 一会集』と、その姉妹篇『茶湯 をりをり草』『入門記』を正確で読みやすい本文にして読書界に送る。
『茶湯 をりをり草』は本邦初の印行で、茶人必読の書。(倉沢先生は、平成8年度茶の湯文化講座の際、講師として無我苑に招聘。)



来村者の声

◎朝起きて、働いて、食事して、風呂に入って、床に入って眠る。そんな毎日を繰り返すことに慣れきってしまい、現代人は人生の意味を見いだせなくなりがちです。私はこの哲学たいけん村のように精神に訴えかける公共施設が必要だと普段からつくづく思っていました。今日は、はじめて来てみて正直な思い、とても良い刺激を受けました。もともとこれでいいから規模を大きくして、より深遠な哲学の世界を分かりやすく提供してください。

(半田市 会社員)

◎初めて来ましたが、とてもきれいな感じで、気に入りました。一緒に来た夫も、とても喜んでいきます。なにか疲れがとれた様で、またぜひ来たいと思っています。



います。ありがとうございます。
◎ハイビジョンについて。現在のメニューには品位があり、見ていて美しさに感動します。

(名古屋 主婦)

◎日曜日だというのに、来る人がまばらで、落ち着きます。天候もしとしと雨で考えるには適する日です。中で流れている音楽がとても気に入りました。時の流れが止まってしまったような雰囲気がいじですね。ここでは時間がゆっくり流れているようです。

(安城市 非常勤講師)

◎村民登録証、郵送で受け取りました。ありがとうございます。何やらバスポートをいただいたような、世界が広がったような感じがして喜んでおります。

(刈谷市 主婦)

お知らせ

●哲学たいけん村民登録のご案内

〔村民の特典〕

◎哲学たいけん村民登録証が交付されます。(呈茶券2枚付き)

◎哲学たいけん村が開催する講演会、展示会、特別茶会のご案内をします。

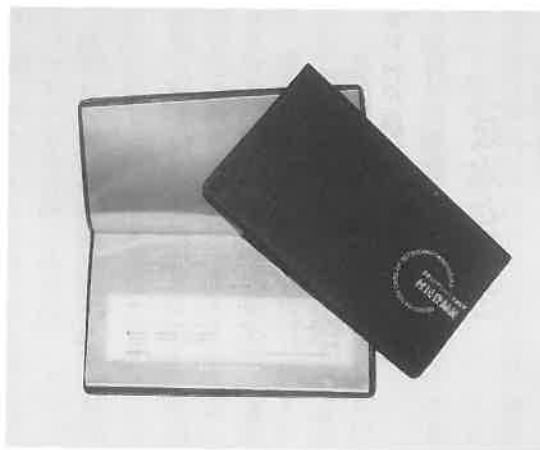
◎講演会の優先予約ができます。

◎機関紙「哲学たいけん村民だより」、「ノート」をお届けします。

【登録手続き等】

登録料1000円、3年間有効で更新のお支払いは500円。詳細、手続きは

無我苑まで
詳細については、瞑想回廊事務室
(☎41・8522)へ。



●「村民だより」創刊について

哲学たいけん村の村民は全国各地に散らばる。当村無我苑を経由して、様々な分野で村民各々の交流を図りたい、との主旨で、村民登録の発足と同時に「村民だより」発刊を決定。村民の皆様には往復書簡でスクープをご提供いただき、こちらで編集させていただいたものを刊行する予定。お楽しみに！



『涛々庵茶会 席主表 (平成9年4月～平成10年3月)』

月日	氏名(茶名)	流派	月日	氏名(茶名)	流派
4.27	瀬田みな子(宗美)	表千家	10.26	磯貝 勝代(宗代)	裏千家
5.25	安形 亮照(宗照)	裏千家	11.23	小笠原英美(宗文)	久田流
6.22	高山 恵子(宗恵)	表千家	12.21	山田 昇(宗昇)	裏千家
7.27	山崎 瑞枝(宗瑞)	裏千家	1.25	杉浦 とめ(宗登)	久田流
8.24	小島 和美(宗美)	裏千家	2.22	小笠原 利(宗紅)	裏千家
9.28	小沢わさ子(宗和)	松尾流	3.22	石原 応順(宗応)	表千家

第8回瞑想回廊企画展示

テーマ 「マチエールへの希求

― 須田剋太の抽象画 ―
内容 (マチエール)とは、フランス語で「画家が絵具などを使って出す質感や絵肌」の意。

洋画家、須田剋太は司馬遼太郎の著作「街道をゆく」で挿絵を担当。今回の展示は氏の未発表の作品を中心に、陶器、書なども展示する。開催は平成9年5月下旬に予定